

ヨシ帯の今後のあり方について

平成25年3月1日
国土交通省 出雲河川事務所

◆ 検討の背景

ヨシ帯の整備は、平成12年の鳥取県西部地震による災害復旧を契機に始まり、既に10年以上経過した。また、平成16年度からは、浅場を整備するとともに、ヨシ植栽を実施している。

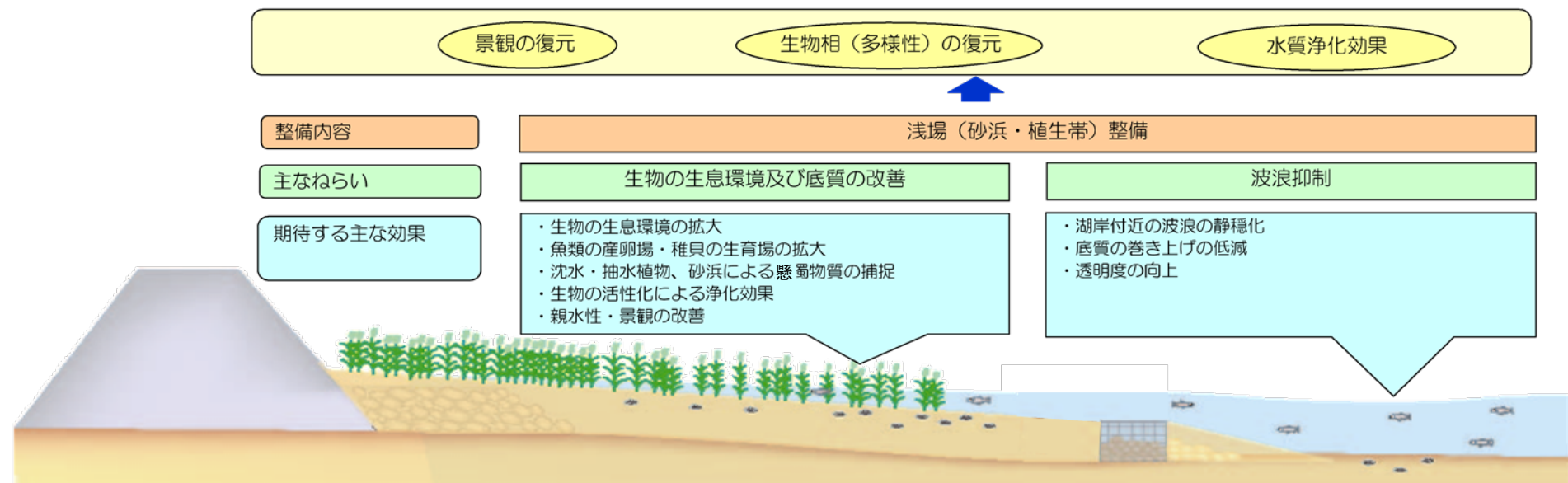
ヨシ帯を整備した箇所の現地は、時間の経過とともに、漂砂による堆積・波浪による浸食、ヨシの繁茂・他種への移行、繁茂範囲の変化、枯れたヨシの堆積、ゴミの捕捉、底質悪化等様々な変化が生じている。

過去に行っていた調査結果や現在のヨシ帯の現状を把握し、当初期待していた効果の発現や現状の現地の問題点について、整理を行い、今後のヨシ帯の整備や現在のヨシ帯のあるべき姿について、議論を進めたい。

この議論を踏まえ、必要となる取り組み、今後の進め方について明らかにしたい。

■ 鳥取県西部地震による災害復旧(H13~)

■ 浅場整備(H16~)



◆ヨシ帯の整備により期待される効果

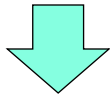
改善項目	期待する主な効果	具体的な効果(一般論)
生物環境 の改善	生物の生息環境の拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨシ等の植生帯に依存する昆虫類等の生物の増加 ・多様な生物の生息域となっている。(藻類、動植物プランクトン、ベントス等)
	魚類等の産卵場・稚貝の生息場の拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・浅場域及びヨシ群落が創出されることによる魚類の産卵場の拡大 ・浅場域が創出されることによる稚貝の生息場の拡大 (・泥質や泥岩部の砂質化によるシジミの生息場の拡大)
自然浄化 機能の改善	沈水・抽水植物、砂浜による懸濁物質の補足	<ul style="list-style-type: none"> ・浅場域及びヨシ帯が創出されることによる波浪抑制と懸濁物質の沈降 ・沈水・抽水植物による栄養塩の吸収 (・砂浜による脱窒効果)
	生物の活性化による浄化効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨシの繁茂による栄養塩吸収量の増加 不明:生物相が豊かになることによる浄化効果。(藻類の増加、動植物プランクトンの増加、ベントス類の増加)
その他の 機能改善	親水性・景観の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨシ帯による護岸の目隠し効果(景観改善) ・浅場域の拡大による親水性の向上 ・カモ類やオオヨシキリ等の鳥類の増加(目隠し効果等)

◆ 期待する効果について、これまでの検討結果を再度整理を行い、必要に応じ現地調査を行う。

◆ヨシの繁茂に伴う課題等

現象	考えられる課題(一般論)
水中に接しないヨシ	・水中に接しない箇所に生育しているヨシでは、水質浄化機能が発揮できない。
枯れたヨシ	・ヨシ帯及び水域の底質の悪化、栄養塩類の回帰、(生物相の変化)。 ・ヨシ帯への堆積による陸域化に伴う水面に接しないヨシの増加、水面の縮小。
ヨシ帯によるトラップ、波浪の緩和	・ヨシ帯にトラップされるゴミの蓄積に伴う親水性、景観の悪化。 ・波浪の緩和に伴う栄養塩類の捕捉による底質の悪化。 ・波浪の緩和に伴う細粒分の捕捉による底質の細粒化。細粒化に伴う砂浜の水質浄化機能の低下。
その他	・系外搬出に伴う水質浄化への取り組み。

- ◆ 課題としては、考えられるものの、その程度等の把握はなされていない。
- ◆ 効果と課題が裏腹な事柄が存在する。



- ◆ 評価手法等の検討を行う。
- ◆ 現地調査の実施
- ◆ 必要に応じ対策を講ずる。



中央湖西岸なぎさ公園の南側